

親密な関係における排他性が個人の適応に及ぼす影響

相馬 敏彦

広島大学大学院生物圏科学研究科

Individuals' adaptation as a function of exclusivity of romantic relationships

Toshihiko SOUMA

Graduate School of Biosphere Sciences, Hiroshima University

Abstract: The purpose of this study was to investigate how exclusivity of romantic relationships influences romantic partners' adaptation. Based on results of eight studies, the author examined how the closeness of the relationship affects the degree of exclusivity, how exclusivity of romantic relationships affects romantic partners' cooperative and uncooperative orientation within the relationship, and lastly how these orientations affect violence by the partner. This study found that exclusivity of a relationship may cause the maladaptation of a partner.

キーワード : domestic violence, exclusivity, cooperative-uncooperative orientation, romantic relationships

要 旨

本論文においては、親密な関係における排他性はその関係内での行動に影響し、それにより相手から受ける暴力被害の程度が左右され、結果として当事者の適応が影響される一連の過程について検討を行った。

第1章 親密な関係の排他性に関するこれまでの研究と本研究の目的

従来、対人関係における排他性は恋愛や夫婦といった親密な関係において顕著であることが示されてきた。また、排他的であることが当事者にもたらす影響として、排他性によって、固執した関係内部からの資源の入手可能性が高まり（山岸, 1998）、それが個人の適応に肯定的な影響をもたらすことが示されてきた。しかしながら、複数の対人関係におけるサポートと葛藤との関連に関する先行研究の知見（Lepore, 1992）から考えるならば、排他性は固執した関係での葛藤対処を抑制し、個人の適応に否定的な影響をもたらす可能性が示唆される。そして、その過程を考える上で、ドメスティック・バイオレンス（夫婦間暴力）の深刻化に関する議論（Walker, 1979）を踏まえると、排他性は次

の過程を経て個人に否定的な影響を及ぼすと予想できる。それは、排他性が強いほど、固執した関係の相手が非協力的な態度を示してきた場合に、反論や批判といった非協力的な態度を示し返すことができず、結果として後に相手から暴力的な振る舞いを受けやすくなるという過程である。いうまでもなく、相手から暴力を受けるほど受け手の適応は阻害されるだろう。これが、排他性の高さが、結果として当事者の適応水準を低める条件になりうる一連の影響過程である。なお、この否定的な影響過程に並行して、排他性には、それが強いほど相手が自分に対して協力的な態度を示した場合に自身も協力的に振る舞いやすくなり、その結果、後に相手から暴力的な振る舞いを受けにくくなる過程も想定できる。この過程は、排他性が結果として個人に肯定的な影響を及ぼす条件になりうる可能性を意味している。

以上のことから、親密な関係における排他性には、相手からの暴力被害を抑制することで当事者の適応水準を高める促進的な影響と、相手からの暴力被害を促進することで当事者の適応水準を低める抑制的な影響とがあると予測される。そこで、本論文においては、促進的・抑制的の両方の側面から、親密な関係における排他性が個人の適応に及ぼす影響過程について実証的な検討を行った。

具体的な構成は以下の通りである。第1章では排他性に関する先行研究を概観し、これまでに排他性のもたらす適応抑制的な影響過程について十分検討がなされていないことを指摘した。この指摘を踏まえ、第2章から第4章においては、排他性が個人の適応に及ぼす影響に関して8つの実証研究を行った。そして最後に、第5章において、それら8つの研究において見出された結果から、排他性がどのように個人の適応に影響を及ぼすのかについて論じた。

以下に、2章以降で示された知見の概要を章ごとに順を追って説明する。

第2章 関係の親密性と排他性との関連

第2章では、関係の親密性が排他性に及ぼす影響について検討した。研究1-1では、学生を対象とした横断的調査の結果、親密な関係では友人関係と比較して、外部の他者からのサポート取得に強い抵抗を示すことが確認され、また、その傾向が一般的信頼感の低い者に顕著なことが示された。また、研究1-2では、学生を対象とした調査の結果、親密な関係においてその関係に対する特別観が強いこと、ならびに特別観が強いほど特別視した関係よりも外部からのサポート取得を抑制しようとすることが示された。以上のことから、親密な関係では、その関係をそれ以外の関係よりも特別視しやすく、排他的に外部からのサポート取得を抑制しようとすることが示された。

第3章 排他性が固執した関係の相手への行動に及ぼす影響

第3章では、排他性が固執した関係の相手への行動にどのような影響をもたらすのかが検討された。研究2では、社会人を対象とした調査の結果、親密な関係の外部からサポートが得られないほど、親密な関係で生じた葛藤への適切な対処が抑制されることが示された。また、研究3では、学生を対象とした横断的調査の結果、親密な関係では他の関係よりも、相手が協力的な場合に協力的な行動がとられやすく、他方で、相手が非協力的な場合に非協力的な行動がとられにくいことが示された。さらに、その関係の親密性による協調的・非協調的行動の違いは、特別観のもつ次の2つの効果によって仲介されることが示された。それは、特別観が固執した関係内での協調的行動を促進する機能と、関係の相手が否定的な言動を示してきた場合の非協調的な行動を抑制する機能である。研究4では、親密な関係における特別観のばらつきに注目して、上述の特別観が志向性にもたらす機能について検

討した。学生を対象とした調査の結果、特別観が志向性に及ぼす影響は相互依存変数の影響と独立したものであることが示された。以上のことから、排他性は、固執した関係における協調的志向性を高め、非協調的志向性を低めることが示された。

第4章 排他性が当事者の適応に及ぼす影響

第4章では、排他性が関係内での行動に影響した結果、相手からの暴力被害の程度が規定され、当事者の精神的な適応が影響される過程について検討を行った。研究5では、成人女性を対象とした横断的調査の結果、親密な関係の外部からサポートを利用できないほど関係内での非協調的行動が抑制され、その結果、相手からの間接的・直接的暴力被害が促進されることが示された。研究6-1では、社会人を対象とした縦断的調査の結果、特別観が協調的行動を促進する一方で非協調的行動を抑制し、それぞれの結果、それぞれ相手から受ける暴力被害の程度が規定され、個人の精神的な適応が影響されるという一連の過程が示された。また、研究6-2では、協調的行動を伴わない非協調的行動は、相手からの暴力被害に対して抑制効果をもたないことも確認された。

第5章 総括と今後の課題

第5章では、第2章から第4章における一連の検討結果に基づき、親密な関係における排他性が個人の精神的適応に及ぼす影響について総括した。そして、本論文で示された知見が次の2点において、従来の社会心理学の知見に対して新たな貢献をなすことが説明された。一つは、個人が複数の対人関係をもつ場合に、それぞれの関係での資源交換のされやすさが異なりうることを示した点であり、もう一つは、排他性が個人の適応に及ぼす否定的な影響を明らかにしたという点である。また、本論文で示された知見に基づいて、親密な関係における暴力被害の予防施策について提言がなされ、示された知見が社会的にも貢献をなすものであることが説明された。最後に、得られた知見が、親密な関係以外の他の関係、例えば課題的な対人関係などにおいても応用可能かどうか、ならびに本論文においてはどのような課題が残されているについて考察がなされた。

引用文献

- Lepore, S. J. 1992 Social conflict, social support, and psychological distress: Evidence of cross-domain buffering effects. *Journal of Personality and Social Psychology*, **63**, 857-867.
- Walker, L. E. 1979 *The battered woman*. New York: Harpercollins (斉藤 学 (監訳) 1997 バタードウーマン—虐待される妻たち— 金剛出版)
- 山岸俊男 1998 信頼の構造 東京大学出版会